

報道関係者各位

ヴィーブヘルスケア株式会社

ヴィーブヘルスケア、超長時間作用型薬剤となる第3世代 HIV インテグラーゼ阻害剤に関して塩野義製薬とのライセンス契約締結を発表

S-365598 は、ドルテグラビルおよびカボテグラビルの成功を基にして、ヴィーブヘルスケアの次世代の革新的な長時間作用型 HIV 治療薬パイプラインを支える可能性を有する

2021年9月28日、英国ロンドン - GSK、ファイザー、塩野義製薬が資本参加するグローバルな HIV 領域のスペシャリスト・カンパニーであるヴィーブヘルスケアは、超長時間作用型(3ヶ月以上に1回投与)の抗 HIV 薬となることが期待される第3世代インテグラーゼ阻害薬 S-365598 に関するライセンス契約を、塩野義製薬との間で締結しました。本契約に基づき、ヴィーブヘルスケアは塩野義製薬に対して 20 百万ポンドの契約一時金を、開発の進展に応じたマイルストーンとして 15 百万ポンドを、また純売上高に対するロイヤリティを支払うものとします。ロイヤリティは、塩野義製薬が導出している既存のインテグラーゼ阻害剤と同一の条件です。また、塩野義製薬は、定められた年間の上限額まで開発費用を負担します。

ヴィーブヘルスケアの Head of Research & Development である Kimberly Smith 博士は以下のよう述べています。

「当社と塩野義製薬との 20 年間にも渡るコラボレーションは非常に成功しており、このコラボレーションにより過去 10 年で最も重要な 2 つの抗 HIV 薬を産み出したと言っても過言ではありません。ドルテグラビルは現在、世界中で 1,700 万人が服用しており、カボテグラビルは世界初の長時間作用型レジメンとして開発されました。塩野義製薬からの 3 番目のインテグラーゼ阻害薬の導入に関する本日の発表により、このコラボレーションが継続され、S-365598 が 2030 年以降の当社のパイプラインを繋ぐことを期待しています。」

塩野義製薬の上席執行役員経営戦略本部長である John Keller 博士は以下のよう述べています。

「多くの HIV とともに生きる人々や HIV に苦しんでいる人々は、HIV であることを日々思い起こされること、HIV であることを知られること、服薬アドヒアランスの維持など、毎日の経口療法に懸念を感じています。そのため、長時間作用型の抗 HIV 薬は、これらの患者の困りごとの解決に大きく貢献することが期待されます。塩野義製薬は、HIV の治療と予防に対するこの革新的なアプローチをヴィーブヘルスケアと連携してさらに進展させることを楽しみにしています。」

S-365598 は、これまでのデータから優れた耐性バリアを示し、ドルテグラビルやカボテグラビルとは異なる耐性プロファイルを有することが示されています。さらに、長い半減期から低用量で 3 か月以上の間隔で 1 回の投与によって治療可能な超長時間作用型薬剤として開発が期待でき、現在前臨床試験が進行中であり、2023 年までにヒトへ初めて投与を行う試験を開始する予定です。



ヴィーブヘルスケアについて

ヴィーブヘルスケアは、英国グラクソ・スミスクラインと米国ファイザーによって2009年に設立された、抗HIV薬に特化したスペシャリスト・カンパニーです。2012年10月に塩野義製薬株式会社が10%の持ち分を取得しました。ヴィーブヘルスケアは、どの会社よりも、HIV/AIDSについてより深い、幅広い関心を持つことで、新たなアプローチで効果的な新規のHIV治療薬を提供し、HIVの影響を受けているコミュニティを支援することを目指しています。詳細は、www.viivhealthcare.comをご覧ください。

GSK について

GSKは、科学に根差したグローバルヘルスケアカンパニーです。詳細情報は<https://jp.gsk.com/>を参照ください。